

INAF・羽場科研B共催講演会

「戦争時代の、欧州とアジアにおける紛争の平和的解決に向けて」

2026.10.10 13:00-16:30PM 城西国際大学3号館

討論の素材として

ートランプ2.0の視点から捉える現代世界ー

平川 均

(INAF)

1. 2020年代とトランプ2.0
2. トランプ2.0外交の特徴とその帰結
3. 「戦略的3つの世界」の重層化

1, 2020年代とトランプ2.0

1. 2020年代に入って常態化した超大国の国際法無視の侵略行為の頻発

2022.2月 **ロシアのウクライナ軍事侵攻**

23.10月 ハマスの奇襲攻撃を契機とする**イスラエル軍のガザ虐殺**

⇒ 中東への拡大。その支持から介入に進む米国

2. 2025.1月 **トランプ第2次政権誕生**⇒ 4月 相互関税 11月「国家安全保障戦略」(NSS 2025.12月公表):「**力による平和**」、「**モンロー主義へのトランプの帰結**」(Trump corollary to the Monroe Doctrine)明記=**ドンロー主義**

=帝国主義米国(西半球+αの縄張り)の誕生

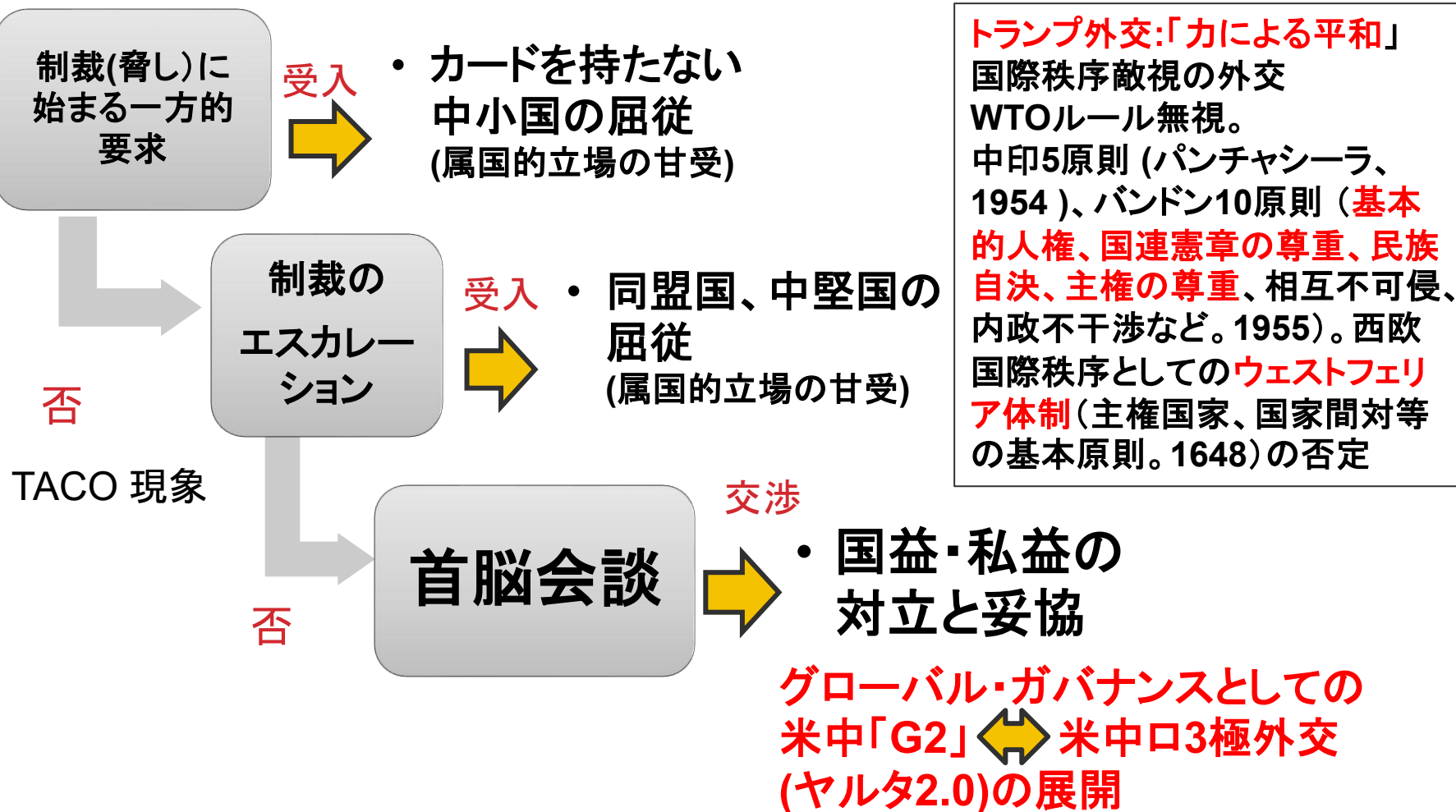
⇒ 2025.1月 ルビオ国務長官 デンマーク自治領**グリーンランド買収**の意志公表、8月 世論工作報道、26.1月 **ベネズエラへの軍事作戦、グリーンランド買収で武力も排除せず、反対8カ国に追加関税25%で脅す、ダボス会議で撤回、2月 イスラエルと共に**イラン攻撃開始**** =帝国主義的米国の出現。3月 LA12カ国親米政権会議、ハンガリー、ブラジル...大統領選介入。国際刑事裁判所(ICC)への制裁(2025.2月 大統領令署名, 26.8月 ICC制裁(本年8月赤根所長制裁へ)、9月国連総会演説 ICC脱退勧奨。

3. 20世紀誕生の「法とルールに基づく国際秩序」の公然の否定

2. トランプ2.0外交の特徴とその帰結

(1) トランプ・ディールと3極外交(‘YALTA 2.0’)とG2

図1. フローチャート・トランプ・ディール



2. トランプ2.0外交の特徴とその帰結

(2) 米中ロ3極外交とG2外交

トランプ2.0外交 別格の中ロ外交

a. 対ロシア

ウクライナ和平仲介のトランプの立ち位置・ウクライナ支援での権益重視とロシア寄り和平案

プーチン首脳会談アラスカ 2025.8月⇒西側対ロ制裁の形骸化

2026.12開催G20へのプーチン招待、26.9月

b. 対中国

米中貿易交渉 2026.4月 米145% vs 中 125%関税 5月 115%切り下げと米半導体輸出規制、中大豆輸入、レアアース輸出規制問題先送り

対習近平首脳会談(25.10月、26.5月、9月)開催。トランプ「G2 ミーティング」

貿易問題先送り

c-1. その他の国

トランプ・ゼレンスキー会談 2025.2月 支援条件復興権益譲渡で決裂

c-2. ベネズエラ・マドゥロ大統領拉致 26.1月⇒ベネズエラ石油埋蔵量55%開発権100年合意ーホワイトハウス発表 8月(ロドリゲス暫定政権25年と発表!?)

写真 作品「ヤルタ 2.0」とヤルタ会談の3首脳



注：ロイター提供の写真とギャラリー作品のコラージュ

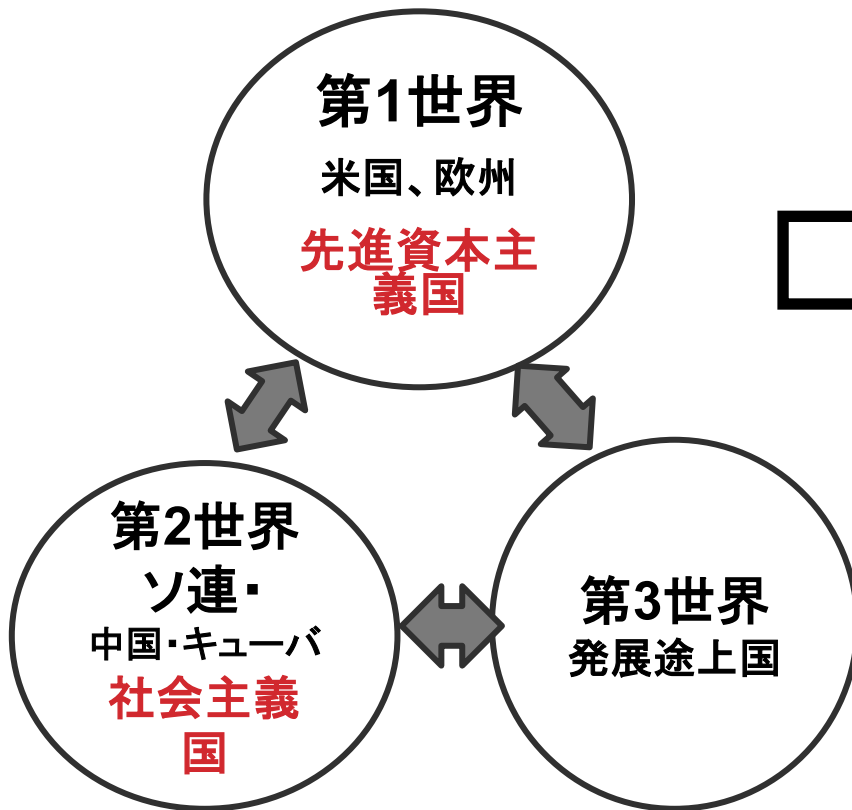
出所：The Nikkei Asia, Feb. 20, 2025

クリミヤ半島旧リヴァディア宮殿博物館の作品

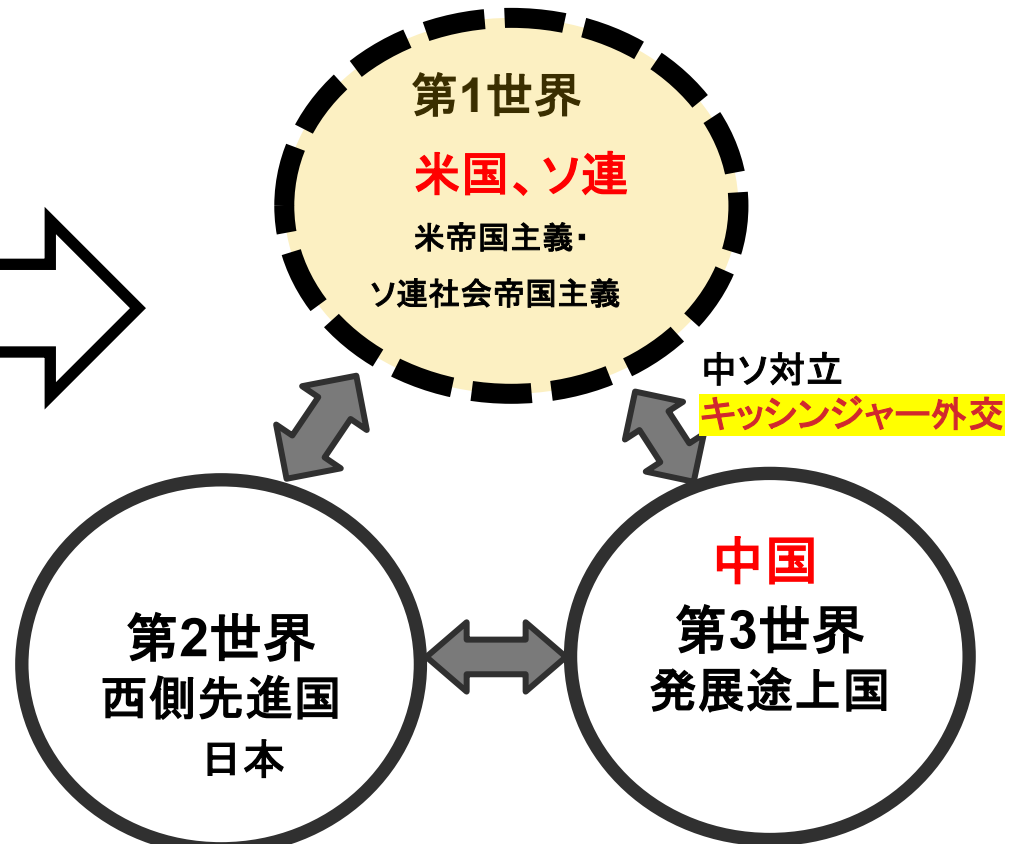
3. 「戦略的3つの世界」の重層化

(1) 1970年代の毛沢東の「3つの世界」論

1950s-70s ソービーの「3つの世界」論



毛沢東の「3つの世界」論



反米ソ統一戦線

1991年 ソ連解体で「第2世界」の消滅、「3つの世界」論の理論的根拠の消滅で、呼称「第3世界」の使用も下火に。

3. 「戦略的3つの世界」の重層化

(2) 2020年代「3つの世界」の「戦略的3つの世界」認識への転換

2020年代の「3つのグローバル世界」論
(A. Stubb, John Ikenberry 2024) 米国のグローバル・ウエスト離脱

⇒ 「戦略的3つの世界」認識(右図)

a. 中国の立場は、G2の中国と共に「**グローバル・サウスの一員**」

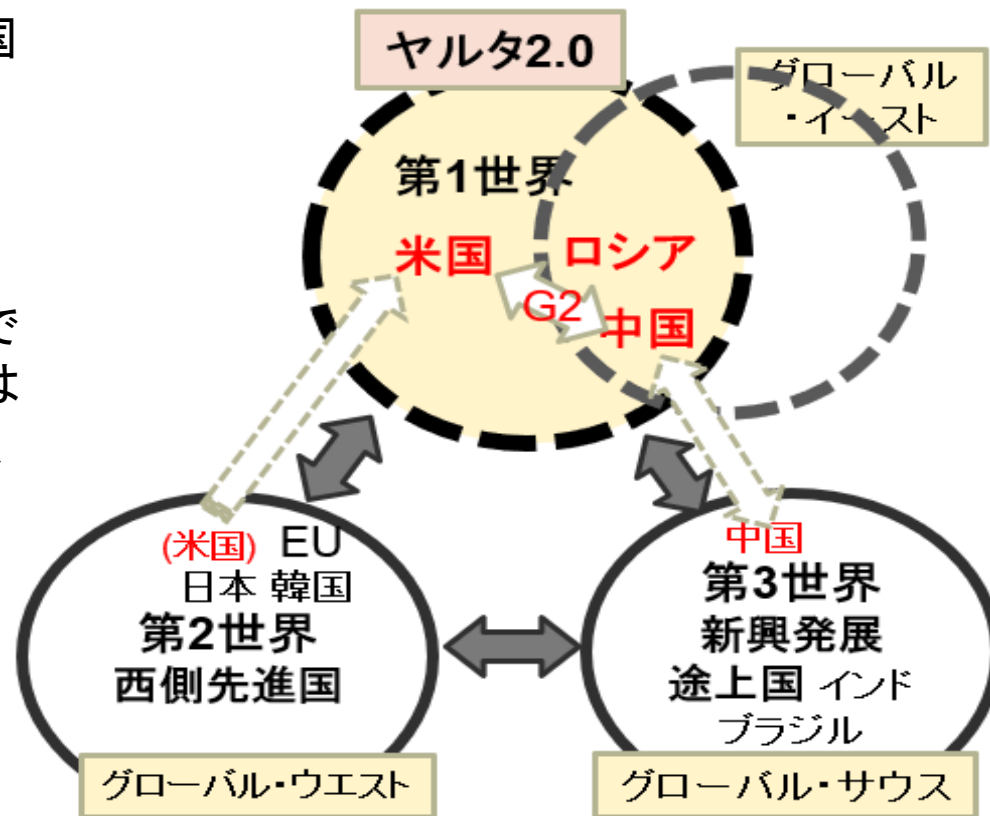
b. カナダの**カーニー首相**、ダボス会議での中堅国連携報告(本年1月)。中堅国は自衛の「**ルールに基づく国際秩序**」擁護、発展で連携を。フィンランド大統領アレクサンデル・ストゥブ「values-based realism」外交。

ヨーロッパ諸国、EU、グローバル・サウスとの連携。**米抜き経済圏**の展開。

インドなどグローバル・サウス(**IBSA**など)の自己主張

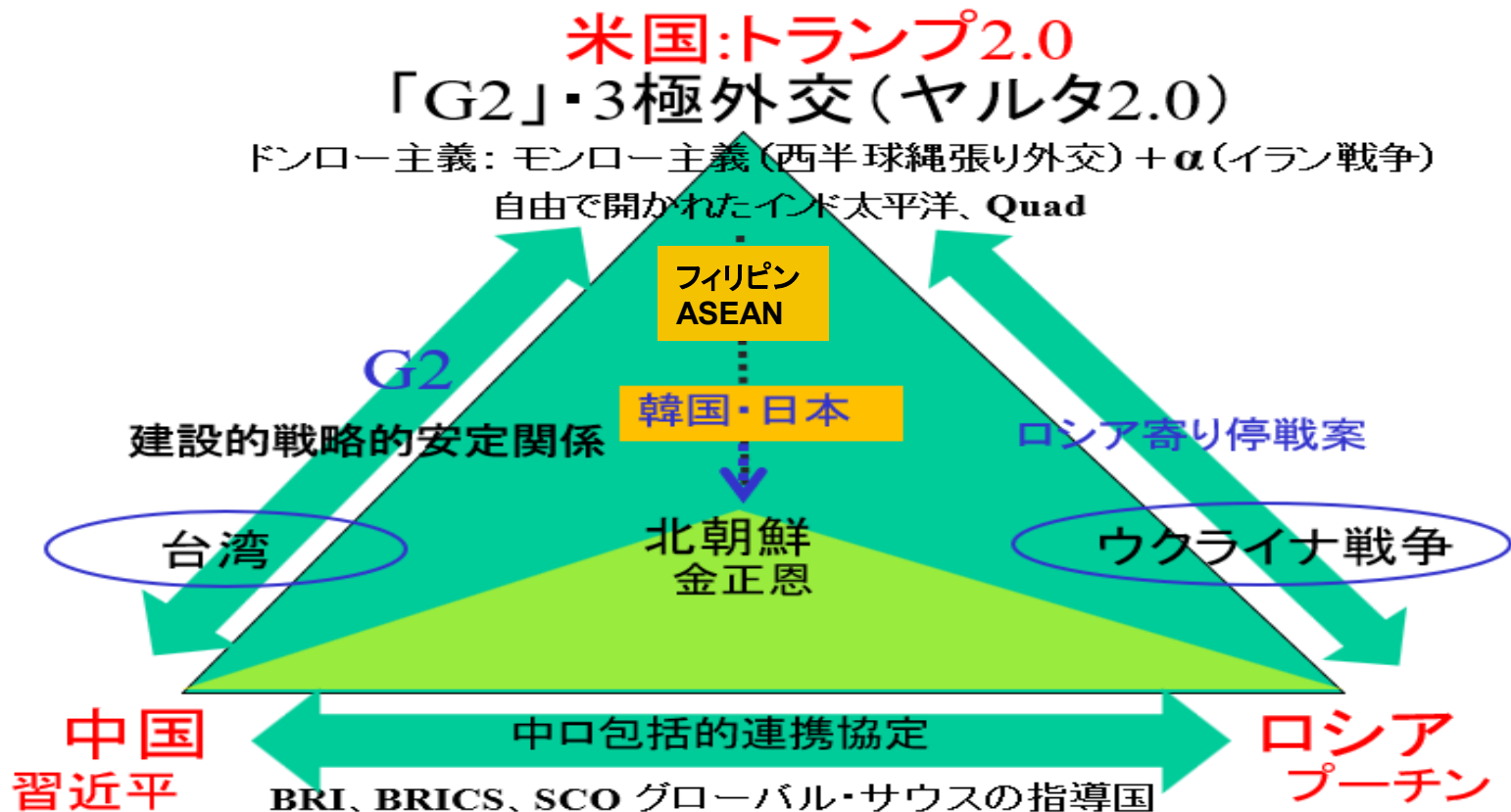
グローバル秩序の在り方をそれぞれの世界が競う重層的世界の出現

その対抗軸は、第1世界による第3世界の属国化か、第2世界(グローバル・ウエスト)と第3世界(グローバル・サウス)の連携か



作成: 平川

地政学から見た東北アジア



参考文献

平川均(2026a)「トランプ2.0とグローバル・ガバナンスの展望—重層化する『3つの世界』論—」『INAFジャーナル』第4号、5月

同(2026b)「トランプ・ディール、3極外交、中堅国連携」『世界経済評論』7-8月号

同(2026c)「米中『G2』と『3つの世界』の重層構造」『言論空間』2026年秋号